Ⅱ・地域における教育情報発信・活用促進事業

「地域における教育情報発信・活用促進事業」取り組み状況について　　各コンソーシアムへのアンケート　集計結果　（回収日：2006年2月28日）

質問内容	＜学習コンテンツの制作に関して＞				＜学習コンテンツの配信に関して＞			
質問番号	（1）	（2）	（3）	（4）	（5）	（6）	（7）	（8）
質問項目	コンテンツの制作方法	（1）で既存コンテンツを収集した場合、その出所	協力機関・協力内容（参画しているコンソーシアム団体を除く）	工夫した点	配信VSAT局	コンテンツを蓄積するための「Webサーバー」保有の有無	インターネット配信の実施（開始時期）	制作・配信に当たっての問題点
あおもり教育情報発信・活用促進協議会	・収集した既存コンテンツを編集	コンソーシアム参加団体が制作した既存のコンテンツ	・有限会社サウンド・クリエイト …再編集作業及び著作権処理	・既存のコンテンツを、より内容の濃いものに再編集した（既存のコンテンツに、新規映像を付け足した）。	青森県総合学校教育センター	持つ予定	実施予定 （平成18年度予定）	特になし
関東地区教育情報発信活用促進研究協議会	・収集した既存コンテンツを編集 ・新たにコンテンツを制作（大学独自収録・編集を含む）	地域の大学等の公開講座（創価大学）	・東京アービック …創価大学講座編集 ・NHKテクニカルサービス …東京工業大学、群馬県立女子大学、女子美術大学（1講座）各収録・編集	・自然科学・スポーツ・医療・国際、芸術など幅広いテーマで構成し、群馬県立女子大学の講座は地元群馬という切り口で制作した。 ・創価大学の講座は、既存コンテンツ活用（編集のみ）により制作費を圧縮できた。	文部科学省に依頼	持っていない	実施予定 （調整中：新潟大学独自のサーバーを利用し、配信予定）	・原則「AB」の著作権処理について、一講座のみ著作物提供者より「B」の利用扱いの承諾が得られず、遺憾ながら著作権レベルを「A」単独とせざるを得なかったこと。
京都コンソーシアム（財）大学コ	・新たにコンテンツを制作(本財団で実施した講座を教室内において専門の撮影業者に依頼し収録）		・有限会社ビジュアルクリエイション ・・・コンテンツの作成および編集作業	・「和歌」に関する10回の連続講座を企画したが、その担当者ならびにいかなる10通りの切り口で解説するかを熟考した。	京都府立総合教育センター	持っていない	実施していない	・VSAT局（京都府立総合教育センター）が、文部科学省が組んだ放送スケジュールどおりには発信できないと申し出たこと。〔本放送は担当するが、再放送は文部科学省でして欲しいとの内容。〕
大阪生涯学習情報コンソーシアム	・既存コンテンツを収集 ・収集した既存コンテンツを編集 ・新たにコンテンツを制作	地域のコンテンツ	・大阪市 …収録会場の協力 ・ワーク21企画、NPOワークレッシュ、NPO友一友 …セミナー講師 ・旭丘まぶね保育園 …コンテンツを活用した地域会の開催 ・株式会社放送映画製作所 …コンテンツの提供	・複数の地方公共団体・大学・企業による協力体制づくり。 ・高い専門性のある内容を、生涯学習情報として誰でもわかりやすく短的にまとめること。 ・講座収録時における照明（特にプロジェクター使用の場合）やカメラ位置など、収録の方法。 ・既存コンテンツを再編集するとき、内容や映像が違和感なく繋がるよう構成を見直しテロップやナレーションで内容を補完した。 ・公開講座や多くの聴衆者を撮影するとき、事前に収録の目的や内容を説明し理解してもらった。	文部科学省に依頼	持っている	実施予定 （平成18年4月1日より）	・地方公共団体が保有しているコンテンツを活用する際、多くの関係者に著作権の承諾を得なければならず、放送時には口頭での承諾となってしまった。（10月放送分）
久留米地域参画推進連絡協議会	・新たにコンテンツを制作		・福岡県企画振興部地域政策課、福岡県栄養士会、久留米市立筑邦西中学校、久留米市立浮島小学校、久留米市立北野小学校、松柏保育園、久留米信愛女学院幼稚園、久留米青果株式会社、久留米認定農業者協議会、スローフード協会筑後平野、久留米大学医療センター、株式会社ソシエテミクニ …企画・情報提供・収録協力 ・ビコム株式会社 …収録及び編集	・視聴者に対してわかりやすい内容とすること（話し方、画面の工夫、など）。 ・視聴者のその後の学習活動のヒントとなるように、地域の事例をできる限り紹介すること。	福岡県教育センター	持つ予定	実施していない	特になし
特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいた	・新たにコンテンツを制作		・株式会社エイエフビイ …講座のビデオ収録・編集業務を再委託	・撮影から編集まで全ての機材は放送用機器を使用し、未来に残す映像ライブラリーとするためにデジタル編集（SONY製デジタルベータカム）を行い、映像劣化の無い高画質のものとしている。 ・講座本編は、必要に応じて、スーパー処理（文字）やナレーション、関連映像で補足し、より分かりやすい表現をしている。 ・フィールドワークや体験講座のような内容は、その臨場感を伝えるために、複数のカメラを使用して収録している。	大分県教育センター	持っていない	実施予定 （2006年4月：大分県生涯学習センターより配信予定）	特になし

質問内容			＜学習コンテンツの活用に関して＞				
質問番号	（9）	（10）	（11）	（12）	（13）	（14）	（15）
質問項目	コンテンツに関連した教材の作成	質問を受け付けるしくみの有無	各地域におけるPR媒体・方法	コンテンツを活用する取組の実施	（12）で実施する場合、受信局等におけるコンテンツの活用方法	学習者からのヒアリング調査実施の有無	エル・ネット以外でのコンテンツの活用
あおもり教育情報発信・活用促進協議会	テキスト 簡単なレジメ	Fax 電話 メール	・コンソーシアムに参画している地方公共団体の広報誌 ・コンソーシアム参画団体以外の関係施設・団体等 ・地元マスコミ ・県民カレッジ学生へのダイレクトメール、各種講座参加者への周知	実施した	・受信局が従来からの講座等の中に位置付けた ・受信局が今回のコンテンツを活用して新たに講座等を企画 ・受講希望者に個人的に対応 ・学習コンテンツのライブラリー化	実施した	している （県内8か所の視聴覚ライブラリー・センター）
関東地区教育情報発信活用促進研究協議会	テキスト 簡単なレジメ	Fax メール	・コンソーシアムに参画している地方公共団体の広報誌(我孫子市生涯学習センター講座ポスター、チラシの作成）	実施した	・受信局が従来からの講座等の中に位置付けた（ふなばし市民大学校では「オープンカレッジ2DAYS」、我孫子市生涯学習センターでは「第2回アビスタフェア」のイベントの1つとして、受講会を開催）	実施した（左記の各受講会にて、受講者の属性、講座に関する感想や希望、インターネット利用などについて、ヒアリングアンケート調査を実施）	していない
（財）大学コンソーシアム京都	テキスト	設けなかった	・コンソーシアム参画団体以外の関係施設・団体等（京都市生涯教育プラザでのチラシ設置） ・地元マスコミ（毎日新聞催し欄の掲載） ・当財団HPでの告知	実施した	・今回のコンテンツを活用して新たに講座等を企画（当財団で1月に再放映会を実施）	実施した（再放映会で数人に感想等をうかがった）	していない
大阪生涯学習情報コンソーシアム	テキスト 簡単なレジメ	Fax 電話やメール（協力機関を通じて）	・コンソーシアムに参画している地方公共団体の広報誌 ・コンソーシアム参画団体以外の関係施設・団体等 ・エル・ネット「オープンカレッジ」Newsを活用し、関係者にPR	実施した これから実施する予定	・コンソーシアムに参画している地方公共団体が、今回制作した学習コンテンツを活用して、地域の講座を新たに企画	実施した	する予定 （インターネットでの全国配信。コンソーシアムに参画している地方公共団体や大学など。）
久留米地域参画推進連絡協議会	テキスト 簡単なレジメ	Fax	・コンソーシアムに参画している地方公共団体、大学関係の広報誌 ・コンソーシアム参画団体以外の関係施設・団体等 ・地元マスコミ ・過去の講座受講者や関係者へ案内状を郵送 ・久留米信愛女学院短期大学のHPでの告知	実施した	・受信局が従来からの講座等の中に位置付けた ・受信局が今回のコンテンツを活用して新たに講座等を企画 ・受講希望者に個人的に対応 ・学習コンテンツのライブラリー化	実施した	している （・久留米市主催　子育て支援講座 ・ファミリーサポートセンター久留米主催 会員フォローアップ講座講習会 ・福岡県教育庁北筑後教育事務所主催　北筑後家庭教育推進協議会講座 ・久留米市立中央図書館及びえーるピア久留米生涯学習センターの視聴覚ライブラリーとして活用）
特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいた	簡単なレジメ	電話 メール	・コンソーシアムに参画している大学関係の広報誌 ・コンソーシアム参画団体以外の関係施設・団体等 ・地元マスコミ	これから実施する予定	・大分県生涯学習センターで行う県民アカデミア大学インターネット講座のコンテンツとして活用する予定	実施しない	する予定 （大分県生涯学習センターの視聴覚ライブラリー、大分県教育センターの教員用視聴覚ライブラリーとして活用）

１．概　要

（１）学習コンテンツの制作について

学習コンテンツの制作方法については、収集した既存コンテンツをエル・ネット配信用に編集、あるいは、今回の事業のために新たにコンテンツを制作、という方法が多くなっている。既存コンテンツの場合の出所は、コンソーシアム参加団体制作のコンテンツ、地域の大学公開講座、地域のコンテンツがあがっている。

制作にあたっての協力先は、コンテンツ収録や編集作業、コンテンツ提供、著作権処理等の協力を、関連機関・会社に依頼しているケースが多い。工夫した点については、内容の充実したコンテンツ作りや、視聴者に対して視聴しやすい番組作りといった点に工夫がなされている。

（２）学習コンテンツの配信に関して

原則として地方のＶＳＡＴ局から発信することとなっているが、地方からの発信が４か所､域内にVSAT局がない２ヶ所のコンソーシアムについては､文部科学省から発信した。制作・配信にあたっての問題点としては、著作権処理に関する指摘が多かった。また、インターネット配信については、おおむね 18 年度中に実施予定の所が４か所あり、コンテンツを蓄積した独自のＷｅｂサーバー、あるいは他のサーバーを利用して配信できる予定である。

コンテンツに関連した教材の作成については、すべてのコンソーシアムでテキスト、あるいは簡単なレジメを作成している。また、質問を受け付けるしくみについては、Ｆａｘとメールが４か所、電話が３か所のコンソーシアムで設けている。

（３）学習コンテンツの活用に関して

各地域におけるＰＲ媒体については、コンソーシアムに参画している地方公共団体や大学関係の広報誌が５か所と多くなっている。また、コンソーシアム参画以外の関係施設・団体へのＰＲも５か所、地元マスコミへのＰＲは４か所となっている。その他、各コンソーシアムのネットワークを生かしたＰＲが実施されている。

受信局等におけるコンテンツの活用については、今回のコンテンツを活用して新たに講座等を企画したコンソーシアムがほとんどである。その他、受信局が従来からの講座等の中に位置付けて講座を実施したり、受講希望者に個人的に対応したりしている。

学習者からのヒアリング調査は、５か所で実施している。また、エル・ネット以外でのコンテンツ活用は、予定も含めて、実施している所が４か所あり、地方公共団体におけるさまざまな講座等で活用されている。

２．各コンソーシアムの取り組みについて

（１）あおもり教育情報発信・活用促進協議会

１．あおもり教育情報発信・活用促進協議会の組織及び目的

協議会は青森県内で制作された学習コンテンツの有効利用及び著作権への対応のため、青森県総合社会教育センターを代表機関として、８つの機関から組織され、魅力ある学習コンテンツを収集・編集することにした。さらに、青森県総合学校教育センターに配置されているエル･ネットＶＳＡＴ局から全国に配信することで施設の活性化を図るとともに、県民及び全国の学習者の学習活動を支援することを目的としている。参加する協議会は、次の事柄について連携・協働することを確認した。

① 年２回開催する協議会兼調査研究会において、県内にある既存の魅力ある学習コンテンツ情報を収集・共有化すること。

② 再編集する学習コンテンツの採択及び内容の検討

③ 再編集する過程で得られた著作処理等に関する知見の共有化

④ 学習コンテンツの有効活用策の検討及び実施

⑤ その他、学習機会の拡充策の提案

２．学習コンテンツの制作について

（１）学習コンテンツの収集

調査研究会において、県内で制作された既存の学習コンテンツ情報の収集に努め、その利活用について協議した。その結果、協議会の代表機関である青森県総合社会教育センターの事業として民間放送局に委託制作した番組４本、郷土学習教材として自主制作した作品４本について、著作権処理を含めて、エル・ネット放送番組として再編集することにした。また、「あおもり県民カレッジ」の単位認定講座として活用することから、そのテーマである地域学としての「あおもり学」に関する番組を再編集する学習コンテンツとして採用した。

再編集する学習コンテンツの題名	①青森県の山「八甲田連峰」	⑤女性たちのチャレンジ
	②十和田湖と奥入瀬渓流	⑥津軽と南部～風土編・祭り編～
	③八戸三社大祭	⑦形のない美術館 ～市民パワー無限大～
	④環状列石～小牧野遺跡～	⑧白神の風に吹かれて

（２）再編集作業の業者委託

再編集作業は業者に委託した。委託契約方法は、青森県総合社会教育センター事業として民間放送局が委託制作した番組４本については制作会社と随意契約し、郷土学習教材として自主制作した作品４本については競争入札により業者を選定した。

委託内容は次の通りである。

① 各コンテンツを定められた時間に再編集すること（15 分～20 分の既存のコンテンツを、新規収録映像を追加して 35 分～40 分に再編集する）。

② 各コンテンツについて、エル・ネット放送用テープ（βカム・ＤＶカム）と保存用ＤＶＤ（インターネット配信が可能なもの）を作成すること。

③ 各コンテンツに、エル・ネット放送受講者用テキストを付すること。

④ 各コンテンツのサブテキストとして、完成台本を付すること。

⑤ 各コンテンツの著作権処理を行うこと。

（３）著作権への対応

著作権処理が必要な事項に関しては、各コンテンツ内容を再度慎重に吟味・検討し、一覧表を作成した。それに従って、再編集作業受託業者が処理するもの、協議会の代表機関である総合社会教育センターが処理するものに仕訳し、処理手続きがスムーズに運ぶよう連携・協働した。著作権の承諾に当たっては、文書で依頼し文書で回答を求めたもの、電話等の口頭で依頼したものに分けられる。

次に著作権処理にあたって、留意した事項について列挙する。

① 既存学習コンテンツのエル・ネット配信という使用目的の変更にあたって、彫刻・絵画・その他の資料等の映像パーツについては、再度使用の許諾を得た。

② 将来のインターネット配信についても許諾を得た。概ね許諾を得たが、中にはエル・ネット放送は良いが、インターネット配信は新たな契約が必要なものもあった。

③ BGM 等で使用する廉価なフリーの音楽ソフトの場合、個人使用は全く問題ないが、不特定多数の視聴が想定される学習コンテンツの部品として使用する際には新たな契約が必要な場合もあった。

３．学習コンテンツの発信について

（１） 発信について工夫した点

本県のＶＳＡＴ局（青森県総合学校教育センター）では、耐用年数の目安である６年経過後はメンテナンスを行うことにより活用してきた。しかし、財政事情が厳しさを増す中で、メンテナンスのための経費を十分確保できない状況にあり、機器の不具合や偶発的な事柄には対応できないので、エル・ネット関連機器設置業者に発信のための技術サポートを依頼した。

（２） インターネット配信に向けて

今後、エル・ネット事業の成果を活かしながらも、現時点においては運用管理コストや操作性の点において優位性のあるインターネットを活用した情報提供事業へとシフトしていくことが予想される。インターネット配信に対応したサーバーの確保、学習者のインターネット環境、学習履歴の管理等のシステム整備を如何にすべきか等、クリアしなければならない事柄は多い。さらには学習者に活用される魅力的な学習コンテンツの制作に、より一層腐心する必要があろう。

４．学習コンテンツの活用について

（１）エル・ネット放送に関する広報

エル・ネット放送内容を広く県民に周知し、各種講座での利活用や個人の学習機会拡充のために、下記のとおり、多様な媒体により広報に努めた。

① リーフレットを作成し、受信局を中心に県内各所へ送付し広報を要請した。
② 地元テレビ局での情報提供、地元新聞紙への掲載（県からの広報欄において）。
③ 県教育委員会広報誌への掲載（学校を経由して、各家庭へ）。
④ あおもり県民カレッジ情報紙への掲載（県内各所へ配置）。
⑤ あおもり県民カレッジ学友会会員へのダイレクトメールの発送。
⑥ 協議会参加機関のホームページ等での情報提供（ＰＤＦファイル）。

（２）エル・ネット活用講座について

協議会が制作した学習コンテンツを活用した学習講座により、青森のひと・もの・ことに関する理解を深めるとともに、エル・ネットの活用促進を図ることを目的に開催した。概要は次のとおりである。

① 協議会参加機関の所在地３地区（青森市・十和田市・むつ市）において開催。
② 受講者はエル・ネットにより放送される番組を視聴するとともに、番組制作者から制作に関わる講義を受ける。
③ あおもり県民カレッジ単位認定講座（２単位）とする。

（３） エル・ネット活用講座受講者へのアンケート

活用講座終了後、講座についてのアンケートをお願いし、８割の方々から回答を得た。講座は主として平日の日中に実施したために、受講者は「自己啓発」・「生き甲斐づくり」・「仲間づくり」を目的としたあおもり県民カレッジの学生が 80%以上であり、年代もほとんどが 60 代以上であった。講座開催情報は、県内各所に配置されたチラシやダイレクトメール、仲間の連絡により知り得たようである。

また、エル・ネット「オープンカレッジ」については、初めて視聴した者が 25%であり、今回の視聴により他の番組も視聴してみたいと回答した者は 80%であった。また、当然のことながら、講座テキストあれば学習内容の理解を深めるようである。

【受講者の自由記述から】

① 大学教授のエル・ネット講座も良いが、郷土を題材にした講座はとても興味をもてた。このような講座のオープンカレッジの回数が多くなることを望みます。

② エル・ネットの視聴とそれに関わる生の講師の講義という学習プログラムは、理解が深まり、大変良かった。

（４） エル・ネット活用講座の広がり

エル・ネット活用講座実施後、受講者から「あおもり教育情報発信・活用促進協議会が制作した他の学習コンテンツを使って学習会をもちたいので、エル・ネットを視聴させてほしい」との申し出があった。その後、むつ市で２つのグループが、10 人規模で、自主的な学習会を実施した。

５．成果と課題

（１）事業実施による成果

① 協議会参加団体間のネットワークを構築でき、情報を共有することができた。

② 既存の学習コンテンツが提供手段を変えて再度利活用され、学習資源の掘り起こしができた。

③ 著作権処理のノウハウが蓄積でき、今後取り組む新しいメディアによる学習機会提供事業実施への足掛かりとなった。

④ エル・ネット活用講座の実施により、学習者のニーズを把握できた。

（２）今後の課題

① エル・ネット視聴に関わる学習者の利便性を如何にして確保するか。

② エル・ネットからインターネット環境での情報発信への移行を視野に入れた、利便性に富んだ、より魅力ある学習コンテンツを制作する必要がある。

成田　昌造（青森県総合社会教育センター　学習情報課長）

（２）関東地区教育情報発信・活用促進研究協議会

１．協力機関との連携の在り方について

関東地区のコンソーシアムにおいては、教育情報の発信を支援するため、大学レベルの公開講座を制作し、関東地区に係る事象及び著名人の講演や広く一般的関心事を掘り下げ、域内はもとより、全国における生涯学習活動の一層の拡大、普及及び定着を図るべく、各参加機関（８機関）と連携し、大学は講座の提供、地方公共団体は講座の受講会の開催を実施した。

コンソーシアムの連携を通して、講座の送り手である大学と受け手である市民カレッジとの連携のあり方（＊１）、また、衛星配信とインターネット配信について送り手と受け手双方のあり方（＊２）について、実証的知見を得られた。

＊１：生涯学習に関心の高い集団にターゲットを絞った受講募集と、広く一般への受講募集とでは、受講結果に違いがあることが確認された。送り手が希望する受講対象と受け手が希望する講座内容を考慮の上、適切な募集方法を選択することが好ましい。

＊２：テレビによる受講には、年齢などの受講者属性に応じたきめ細かい講座番組やテキスト作りが肝要である。また、６割程度の受講者がインターネットによる講座配信も希望する一方、対象年齢が高い市民カレッジにおいては「仲間との交流」のために受講する者も少なくないため、受講会、すなわち上映会もコミュニティ育成という点で意味を持つ。

参加機関（ 大学６、地方公共団体２　計８機関 ）

・東京工業大学：「歌う生物学」、「スポーツ講座２００５」計２講座

・新潟大学：「脳の病気」、「心臓の病気」、「肝硬変から肝癌へ」、「腎臓の病気」計４講座

・群馬県立女子大学：「群馬の漢文碑を読む」計１講座

・上智大学：「貧困・紛争と国際協力概論」、「同各論」計２講座

・創価大学：「ヒトの病気と遺伝子 ―がん― Ⅰ・Ⅱ」、「生活に役立つ保険の知恵Ⅰ・Ⅱ」計４講座

・女子美術大学：「生きた仏像」、「ヒーリングアートの実際」、「和紙とその可能性」

計３講座

・ふなばし市民大学校：「ふなばし市民大学校オープンカレッジ２DAYS」受講会

計２日

・我孫子市生涯学習センター：「第２回アビスタフェア」受講会　計１日

２．学習コンテンツの制作に関して工夫した点

・テーマ選びの工夫（社会的要請に基づく内容、ニーズ調査等）

自然科学、スポーツ、医療、国際、芸術など幅広いテーマで構成した。

群馬県立女子大学の講座は、漢文碑に関して地元群馬という切り口で制作した。

・既存コンテンツの有効活用方法

創価大学の講座は、既存コンテンツ活用（編集のみ）により制作費を圧縮できた。

・著作権処理

参加した各大学とも著作権レベルを原則「ＡＢ」で取り扱えるコンテンツ制作を行った。しかし、一つの講座において、著作物（写真）提供者より「Ｂ」の利用扱い（ビデオ貸し出し）の承諾が得られず、また代替として適当な写真も無い上、当該著作物無しでは講座として成り立たないためにマスターテープ編集段階で省くこともできず、遺憾ながら著作権レベルを「Ａ」単独とせざるを得なかった。

３．学習コンテンツの発信に関して工夫した点

・インターネット配信については、東京工業大学、新潟大学が、それぞれ大学独自サーバー利用で行う予定でいたが、東京工業大学は、２講座共に権利関係の問題から配信が出来ず。新潟大学は、現在、フロントページとセキュリティーを検討しており、間もなく配信の予定。

４．学習コンテンツの活用に関して工夫した点

（１）活用の形態・方法

以下２つの地方公共団体にて受講会を開催し、受講者の属性、講座に関する感想や希望、インターネット利用などについてアンケート調査を実施した。

①ふなばし市民大学校

同校は、生きがいづくりや交流を行いたい、スポーツや生涯学習などを通して地域のまちづくりを学びたい 60 歳以上を対象にしており、「ふなばし市民大学校オープンカレッジ２DAYS」と題した受講会を開催した。

・開催日時：

12 月 21 日（水）　午前 10 時 30 分～午後３時 45 分

「歌う生物学」「脳の病気」「心臓の病気」

22 日（木）　午後１時 30～３時 45 分

「肝硬変から肝癌へ」「腎臓の病気」

・参加者数：２日間実参加者数 67 名（延べ 99 名）

21 日実参加者数 60 名、22 日実参加者数 39 名

「歌う生物学」28 名、「脳の病気」58 名、「心臓の病気」55 名

「肝硬変から肝癌へ」39 名、「腎臓の病気」38 名

・アンケート回収数：21 日：59 枚、22 日：39 枚、（内、両日：32 枚）

②我孫子市生涯学習センター

同センター「アビスタ」を広く紹介する「第２回アビスタフェア」のイベントの一つとして「歌う生物学」の受講会を開催した。

・受講会開催日時：

１月 29 日（日）午前 10 時～午後 12 時　「歌う生物学」

・参加者数：28 人

・アンケート回収数：21 枚

（２）地域における広報

ふなばし市民大学校では、在籍者 500 名余に募集告知を行った。我孫子市生涯学習センターでは、市内 40 か所の掲示板に講座ポスターを掲示の上、チラシも作成して、広く一般市民から受講生を募集した。

（３）学習者からの質問対応

FAX 及び E-mail で随時質問を受け付け、各講師へ連絡の上、何れも丁寧な回答を得られた。総受付件数は現在まで７件。

内訳：東京工業大学「歌う生物学」１件（ふなばし市民大学校）

創価大学「ヒトの病気と遺伝子 - がん - 」１件（石川県立生涯学習センター）

新潟大学　「脳の病気」「腎臓の病気」４件（ふなばし市民大学校　３件）、

（酒田市教育委員会生涯学習課　１件）

女子美術大学「ヒーリング・アートの実際」１件（中学校教師）

（４）ヒアリング・アンケート調査結果

受講者（実数）は、ふなばし市民大学校では２日間で延べ 99 名（１日平均 49.5 名）、我孫子市生涯学習センターでは１日間で 28 名であった。なお、「歌う生物学」に限っては両会場とも 28 名で同数であった。

受講者属性に関しては、ふなばし市民大学校では当然ながら学生対象である 60 代を中心として平均年齢 64.5 歳。在籍者を反映してか、ほとんどが無職若しくは専業主婦であったのに対し、我孫子市生涯学習センターでは広い年代に亘り、平均年齢は 49.3 歳、職業もさまざまであった。しかし、性別は、両受講会場間に大きな差はなく、男性６割強、女性３割強であった。

今回の講座に関して、平均年齢が高い層でテキストの評価がそれほど高くはなかったものの、講座の内容や演出及びビデオ受講の全般に関しては概ね好評価を得られた。

総じて、年齢層が高く、現在無職である層ほど、今後の受講希望として「地域連携やボランティアに関する講座」をあげたり、今回の受講理由として「仲間と交流できるから」をあげる人が少なくなく、生涯学習をコミュニティ参加の場と考えていると思われる。

パソコン・インターネットに関しては、年代を問わず約７割がパソコンを保有しているものの、インターネット講座無料配信を積極的に希望するのは６割程度に留まり、更に年齢が高くなるほど「日頃よくインターネット利用する」割合は大幅に減少する傾向にある。

公塚　雄二（財団法人衛星通信教育振興会　総務課長）

（３）財団法人大学コンソーシアム京都

１．はじめに

当財団では、さまざまな教養を身につけたい方を対象に、 キャンパスプラザ京都（ＪＲ京都駅近く）を拠点とした、体系的かつ専門的な生涯学習プログラムを「プラザカレッジ京都学講座」「プラザカレッジ 21 世紀学講座」として開講してきた。特に、「プラザカレッジ京都学講座」は、京都の伝統文化、芸能等を紹介することもあり、好評を博してきた。

これらの講座はその都度撮影し、ビデオテープを欠席者に貸し出すようにしてきた。しかし、撮影されたビデオテープは、その後の活用が十分でなかったと言える。

今年度、文部科学省「平成 17 年度　地域における教育情報発信・活用促進事業」に採択され、本事業における取組みとして、プラザカレッジ京都学講座「和歌　～ひとのこころをたねとして～」をデジタルコンテンツ化し、全国に発信することとした。以下、本財団の取組みの概要について、報告することとしたい。

２．講座の概要

本事業で発信した、プラザカレッジ京都学講座「和歌　～ひとのこころをたねとして～」の概要は次のとおりである。

講座タイトル	講師（所属）
第１回「和歌とは何か」	小林一彦氏（京都産業大学文化学部教授）
第２回「京都と和歌」	安田純生氏（歌人「白珠社」代表）
第３回「古今和歌集とは何か」	片桐洋一氏（元大阪女子大学学長）
第４回「新古今和歌集とは何か」	赤瀬信吾氏（京都府立大学文学部教授）
第５回「古今伝授」	日下幸男氏（龍谷大学文学部教授）
第６回「和歌の家の伝統と継承」	冷泉為人氏（冷泉家 25 代当主）
第７回「和歌と短歌」	久保田淳氏（東京大学名誉教授）
第８回「古典文学が茶の湯文化に与えたもの」	生形貴重氏（千里金蘭大学教授）
第９回「古今和歌集と箏曲」	久保田敏子氏（京都市立芸術大学教授）
第 10 回「京都の文化と和歌の世界」	村井康彦氏（京都市美術館館長）

講師は、中世文学（和歌）およびその関連する分野において、第一線で活躍する先生方である。内容も「古今和歌集」「新古今和歌集」の解説のみに止まらず、それに関連する「茶の湯」や「箏曲」をも対象とした。

講座テーマの「和歌」は、京都の伝統文化を伝えるに十分な素材であり、中世文学（和歌）愛好者を魅了する内容であったと考えている。

＜第１回講座の模様＞

事業の実施にあたっては、本財団の学術コンソーシアム推進委員会京都学研究会が調査研究委員会として、コーディネートを行った。同研究会は京都から発信される宗教・伝統文化・伝統芸能とそれらを支えてきた伝統産業をテーマに、各分野の底流にある日本人が古来より持っていた美意識を研究することによって、未だ確立されていない「京都学」の体系化を目指して設置された。研究成果は、コーディネート科目（単位互換科目「京都学総論」）、プラザカレッジ講座（生涯学習講座）、出版などの形で社会に発信を行っている。

３．学習コンテンツの制作について

学習コンテンツは、以前から携わっていた業者に依頼をし、ＤＶＤを媒体として制作を行った。講座を担当する先生方には、あらかじめ著作権について許可を得ており、円滑に進めることができた。コンテンツ制作に際しては、講演者の顔のみを写すのではなく、当日のパワーポイント画像や講演聴衆者にときおり画面を写すなどの配慮を行った。これは、講演者の顔のみを写しつづけると、視聴者が見づらくなるという理由からである。

映像の合間には、レジュメの内容を掲出し、受講生の理解を助けるようにした。映像に写したレジュメの内容は、改めて映像用にフリップを作成し、ＮＨＫの教育講座のような形式を採用した。講演の合間に、適宜フリップを映し出すことは、ＮＨＫ等の講座でも使われている手法で、大変効果があったと思われる。

講演時間は 90 分であるが、不要な部分はカットするなどし、全体を 80 分程度に編集を行った。聴衆からの質問も、フリップに要約したものを映し出した。このことも冗漫な部分を編集することにより、聴衆の疲労感を感じさせない工夫である。

このようにコンテンツ作製に際し、さまざまなノウハウを蓄積することがきたのは、本

財団にとっても大きな成果であった。今後、このような機会があれば、生かしたいと考えている。また、後で触れるとおり、作成したＤＶＤは財団の自主的な試みとして、１月に再放映を行った。

４．学習コンテンツの配信について

作製したＤＶＤは、京都府のＶＳＡＴ局である京都府総合教育センターへ持参し、配信をお願いした。同センターは、「教育研究事業」「教職員研修事業」「教育相談事業」「教育情報収集・活用事業」の４つを主な事業としている。特に、ホームページには、学校支援のさまざまなコンテンツが用意されている。

＜京都府総合教育センター＞

配信に際しては、同センターの全面的な支援を受けることができた。配信は、ＤＶＤを用いて行った。なお、ＤＶＤのデジタルコンテンツは、同センターに寄贈し、その後のご活用をお願いした。併せて、教材集も寄贈した。

なお、再放送に関しては、同センターの研修実施期間と重なったため、文部科学省に配信を依頼した。

５．学習コンテンツの活用

学習コンテンツの活用については、当財団においても独自に再放映事業を企画した。再放映は、当財団が事務所を構えるキャンパスプラザ京都を会場とし、５日間で 10 講座を放映した（１日のうち午前１回、午後１回放映)。

＜放映日の模様＞

告知日の関係から、放映当日は数名程度の参加であったが、概して好評であった。当日は、ＤＶＤデッキと液晶プロジェクターを接続し、スクリーンに映し出す方法を採った。音声も十分に聞き取れるよう、外部スピーカーに接続した。

参加者に中高年の方が多かったのは事実であるが、中には授業に生かしたいとのことから、高等学校の国語科の教員が参加をされていた。これな

どは、本講座の水準の高さを示していると言えよう。

受講生に話をうかがうと、講座の内容は大変好評であった。講師の先生方それぞれが持ち味を発揮され、受講生から大変優れた内容であるとのご意見を頂戴した。また、可能であれば、スカイパーフェクトＴＶやケーブルテレビまたはインターネットで配信してほしいとの要望があった。今後、インターネットによる配信事業も含め検討課題としたい。

６．おわりに

以上、本事業について、その取組み概要を述べてきた。次に、その成果や反省点について、簡略に触れておきたい。

まず、冒頭で触れたとおり、本講座を全国発信できたことは、大変意義のあることであった。本財団が最も力を入れてきた京都学の一端について、知らしめることができたように思う。

第二に、講座をデジタルコンテンツ化する際のノウハウについて、ある程度窺い知ることができた点である。今後、教材作成と併せて、受講生にわかりやすく伝える工夫を進めていきたい。

次に、反省点について、述べることとしたい。

生涯学習の時代にあって、遠隔地在住者に水準の高い講座を提供することは、極めて意義深いことである。しかし、現状では資金面や設備面の問題もあって、インターネット配信等が極めて困難である。今後、作成したデジタルコンテンツを配信できるような体制の構築が必要である。例えば、京都府下の社会教育施設にＤＶＤを寄贈し、放映いただくようなことを考えていきたい。

渡邊　大門（財団法人大学コンソーシアム京都　総括主幹）

（４）大阪生涯学習情報コンソーシアム

１．協力機関との連携の在り方について

当コンソーシアムは、大阪府、柏原市、藤井寺市、大阪大学、放送芸術学院、株式会社イングラムジャパン、e‐Kokoro 協議会、すなわち行政、大学、専門学校、企業、教育支援団体から構成された。良質なコンテンツを提供し、撮影や編集、制作するということにおいてはコンテンツ制作を専門とする企業、民意に沿ったネタを提供する行政、高い専門性および科学の先端に関する内容を生涯学習情報として広く提供する大学、またそれらの組織間連携をスムーズに行う教育支援団体など、それぞれの組織が相互に力を発揮することにより、効率的に複数のテーマからなるコンテンツ提供が可能となり、大阪地域における産官学連携による生涯学習コンテンツ作りのモデルとなった。

・「高井田横穴古墳の線刻壁画は語る‐大和川と古代日本の展開‐」柏原市
・「大和川と古代日本の展開‐河内の歴史を訪ねて‐」柏原市
・「コミュニティ・ビジネス　基礎編」大阪府（商工労働部）
・「コミュニティ・ビジネス　実践編」大阪府（商工労働部）
・「子どもは宝やで‐子育て・親育ち‐」大阪府（教育委員会）
・「みんなの劇団ワイワイ子育て」大阪府（教育委員会）
・「話しましょう！子育て親育ち」大阪府（教育委員会）
・「植物生態学とタンポポ戦争」大阪大学大学院（工学研究科）
・「日本発！みんなで国際ボランティア講座（１）」大阪大学大学院（人間科学研究科）
・「日本発！みんなで国際ボランティア講座（２）」大阪大学大学院（人間科学研究科）

２．学習コンテンツの制作に関して工夫した点

（１）テーマ選びの工夫（社会的要請に基づく内容、ニーズ調査等）

常に民意を反映し、先取り努力をする大阪府からは府民より人気が高く、地域住民の生活に密接に関わる課題を解決するためにビジネス的手法で取り組む従来からの大阪府の事業としてきた地域のボランティア活動を促進する「コミュニティ・ビジネス」、家庭教育や子育て啓発のために制作された「子どもは宝やで‐子育て・親育ち‐」「みんなの劇団ワイワイ子育て」「話しましょう！子育て親育ち」を取り上げた。大阪府柏原市では、地域素材を活用、アニメーションやイラストで分かりやすく解説したコンテンツを作成し、学校教育や各市における地域の生涯学習素材として幅広く共同活用できる「高井田横穴古墳の線

刻壁画は語る - 大和川と古代日本の展開 - 」「大和川と古代日本の展開 - 河内の歴史を訪ねて - 」を取り上げた。大阪大学においては、高度な専門性の追求と研究・開発・教育の推進を行う中「植物生態学とタンポポ戦争」では、タンポポを例に、在来種と帰化植物の関係を解説し、植物生態学の面白さをわかりやすく解説した。大学での取組みは研究・開発・教育だけでなく、地域の中で住民とともに生きる存在として、地域及び国際社会貢献にも力をいる。その一環として人間科学研究科ボランティア人間科学講座「日本発！みんなで国際ボランティア講座（１）」「日本発！みんなで国際ボランティア講座（２）」を地域公開講座として開講している。その情報を本事業用に編集制作し、ボランティアの在り方についてまとめた。

（２）既存のコンテンツの有効活用方法

当コンソーシアム参加の大阪府教育委員会では、平成 15 年、16 年に地域教育振興課が地域のさまざまな課題解決に向けた実践的活動を紹介する「まなび　ふれあい　まちづくり　プロジェクト」で映像化され、広く府域に普及を目的としたものを当事業で再利用し有効活用した。「大和川と古代日本の展開 - 河内の歴史を訪ねて - 」では、柏原市が広報用に作成されたビデオテープを部分活用した。地域住民向けの内容に全国放送向けに修正を加えそれらを簡潔にまとめた。

（３）著作権処理

既存のコンテンツを活用する際に障害となるのは、著作権処理についてである。映像化にあたっては、一般的には映像製作会社が事業ごとに委託された契約にもとづいて著作権を処理していく。契約元が全体の著作権を、部分的な素材となるイラストや出演者の肖像権は作成者や出演者の権利となり、再利用は困難となる。当コンソーシアムでは教育用利用に限り二次利用（エル・ネット配信基準のＡ・Ｂ）を承諾していただくよう説明し理解していただいた上で、インターネット配信（全国配信）、エル・ネット配信（基Ａ・Ｂ）への承諾を行い、場合によっては肖像権処理（様式２の演じるもの）を必要とするものも行った。新規で作成するコンテンツについては、公開講座や多くの聴衆者を撮影するとき、事前に収録の目的や内容を説明し場合によっては画面に入らない場所への移動など協力いただいた。

※インターネット配信用コンテンツの制作の実施、その工夫について

当コンソーシアムでは、当初よりエル・ネット配信及びインターネット配信を計画していたため、章立てとそれらをつなげたストーリーの展開で考えた。エル・ネットでは　30

分を継続して放送できるが、インターネットの場合、配信用サーバーへの負担を軽減し、ユーザー（受信者）のさまざまなインターネット環境に適応したコンテンツ配信が必要となる。それにはできるだけ軽く圧縮し、なおかつ見やすさを考慮するとき映像の質も問われる。現在のところ 300Kbps と 500Kbps の２種類でそれぞれ１分につき 1.5M と 3M ぐらいになるよう圧縮をかけている。また、映像の長さに関しては、一方向の配信コンテンツの場合、集中して見られる時間を考慮し 10 分以内に収めることとした。しかし、途中で切れると分かりにくい内容に関しては、長さよりも内容を重視し作成している。

３．学習コンテンツの発信に関して工夫した点

（エル・ネット配信のほかに、生涯学習機会拡大のための発信を実施したか）

エル・ネット配信による放送後、柏原市では、元になるデータを活用し学校教育での教材や市内外に広く柏原市の存在を訴える材料として利活用する予定である。

※インターネット配信の実施、その工夫について

平成 18 年 4 月 1 日より、http://www2.e-kokoro.ne.jp/elnet/ で配信を開始します。配信用サーバーはコンソーシアム参加機関である e - Kokoro 協議会が提供し、動画配信を行う事ができる専用サーバーにて本事業のホームページを運営します。一般のネット環境に合わせた映像配信が行えるようにサイズや映像分数、ファイル容量に注意した。また、できるだけ多くの方に閲覧していただくため､内容の紹介や講座テキストを PDF で提供し、シンプルで見やすい一覧性のある構成にした。

４．学習コンテンツの活用に関して

当コンソーシアムでは「子どもは宝やで - 子育て・親育ち - 」が 10 月 18 日に放送された。他 9 本は平成 18 年 2 月、3 月となり活用報告は、現段階ではご報告が間に合わなかった。10 月 18 日には、大阪府柏原市では国分図書館でエル・ネット受信ができ、『エル・ネット「オープンカレッジ」News』Vol.23 を配布することにより多くの市民の方が集まられた。そのときの様子が左の写真である。

柏原市の発行する広報「かしわら」3 月号に「高井田横穴古墳の線刻壁画は語る - 大和川と古代日本の展開 - 」「大和川と古代日本の展開 - 河内の歴史を訪ねて - 」公開講座のお知らせを掲載した。

公開講座には市民 20 名ほどが参加され好評であった。同時にビデオの貸し出しを行い活用にも役立てることができた。

バーチャルリアリティで描く古代の柏原

日本一古墳の多いまち柏原市のビデオが完成！

第1巻（30分）
「高井田横穴の線刻壁画が語る世界一大和川と古代の柏原ー」
第2巻（30分）
「大和川と古代日本の展開ー河内の歴史を訪ねてー」

柏原市民文化センターで放映を行います。
とき　3月8日（水）・9日（水）
いずれも午前10時～11時
問い合わせ　歴史資料館（☎76－3430）
※3月からビデオの貸し出しを行います。くわしくは歴史資料館（☎76－3430）まで。

「ゴンドラ形の船に乗る人」のレプリカ完成

高井田横穴古墳は6世紀中頃から7世紀中頃に造られたもので、その中の第三支群5号墳には線刻壁画「ゴンドラ形の船に乗る人」があります。
線刻壁画としては柏原の誇る、日本で最も重要な文化財の一つです。しかし、保存状態が悪く、年2回だけ特別に公開していましたが、このたびレプリカが完成し、いつでも歴史資料館で見ることができるようになりました。

公開開始　3月25日（土）から
ところ　歴史資料館（☎76－3430）
休館日　月曜日
開館時間　午前9時30分～午後4時30分

人権ほっとぷ
自分自身が解き放たれる
大阪教育大学教授　森　実

（2006・3）　26

・活用の形態・方法

エル・ネット配信局から受信された映像をビデオテープに録画し各関係団体で活用した。

・地域における広報

当コンソーシアムでは、（財）日本視聴覚教育協会が発行した『エル・ネット「オープンカレッジ」News』Vol.23 を各関係機関や協力者に配布し広報活動に活用した。代表機関である柏原市では、3 月放送予定の「高井田横穴古墳の線刻壁画は語る - 大和川と古代日本の展開 - 」「大和川と古代日本の展開 - 河内の歴史を訪ねて - 」を広報誌にて市民に配布した。

10 月放送された「子どもは宝やで - 子育て・親育ち - 」は、市立保育園内で視聴会が催され保育園に通う子どもの両親から人づてに広まり多くの方の意見が聞かれた。

・学習者からの質問対応

全コンテンツの問い合わせを FAX にて可能とした。各コンテンツのレジュメ及びテキストの下段部分に問い合わせ先の番号を記載し、いつでも対応できるようにコンソーシアム連絡担当者の所属先 e - Kokoro 協議会に連絡が入るようにした。そして、平成 18 年 4

月からインターネットを通じて問い合わせができるようにする予定である。

・ヒアリング・アンケート調査結果

10 月放送「子どもは宝やで - 子育て・親育ち - 」についてのアンケートを行った（参考資料を参照）。映像内容についての質問に、男性は「ふつう」と回答し、女性は世代に関わらず「参考になった」、あるいは「大変参考になった」と回答している。これは、今回の映像の内容が女性にとっては共感しやすい、身近に感じられるものであるが、男性には面白みに欠ける、あるいは訴えるものが少ない内容であったとも考えられる。

また、補助テキストについては「あったほうがよい」との回答が多い一方で、内容についての評価は無回答が多い。これは今回のテキストが視聴者の望む内容と一致していなかったのではと推測できる。学習映像は視聴者の世代や性別を特定したものではないため、ターゲットを絞りにくい内容となるが、それは補助テキストでも十分に補うことが出来、その後の放送番組補助テキストに多いに参考となった。

５．その他（今後の課題）

当コンソーシアムでは 10 本のコンテンツを異なるテーマで作成した。それは、コンテンツごとの構成、打ち合わせを含む関係団体や人との調整、著作権処理、事業経費の管理などとても時間がかかった。特に困難なのが公開講座の開催で、テーマにより受講する対象者が異なるため、まとまった受講者が集まりにくく、公開講座の内容が適切であったかどうかの評価がとれなかった。

コンテンツ制作及び配信については充実していたが、活用（例えば公開講座など）やその広報活動が少なかった。それらの原因は、多くのコンテンツが２～３月放送となり活用に至る物理的時間がなかったことが考えられる。コンテンツ（内容）について地域にとけこみ変化していく内容と、ＩＴ利用による生涯学習のあり方を今後の研究･開発としたい。

笹田　能美（e - Kokoro 協議会　研究員）

参考資料

学習ビデオ『子どもは宝やで！－子育て・親育ち－』アンケート集計

（有効回答数：13）

≪回答者属性：選択式≫

（１）年齢

19才以下：4名

20-29才：4名

30-39才：2名

40-49才: 1名

50-59才：1名

60才以上：1名

（２）性別

男性：3名

女性：10 名

（３）子どもの人数

0人：6名

1人：1名

2人：5名

3人：1名

4人以上：0名

≪学習内容について：選択式≫

（４）内容について

大変参考になった：3名

参考になった：8名

ふつう：2名

参考にならなかった：0

全く参考にならなかった：0

（５）ビデオ上映時間について

大変ながく感じた：0名

少しながく感じた：3名

ちょうどよい：9名

少しみじかく感じた：1名

大変みじかく感じた：0名

（６）学習者向け補助テキストについて

あった方がよい：6名

どちらとも言えない：3名

必要ない：3名

無記入：1名

（７）補助テキストの内容について

大変参考になった：2名

参考になった：3名

ふつう：2名

参考にならなかった：0名

全く参考にならなかった：0名

無記入：6名

（５）久留米地域参画推進連絡協議会

１．学習コンテンツの制作に関して

（１）学習コンテンツ名「21 世紀の食育（全７巻）」各 45 分

現代の日本社会は、「食生活」について様々な問題を抱えている。栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題に加え、新たな「食」の安全上の問題や、「食」の海外への依存の問題が生じており、「食」に関する情報が社会に氾濫する中で、人々は、食生活の改善の面からも、「食」の安全の確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。

また、平成 17 年６月に食育基本法が成立し、７月から施行されているが、この法律では、「食育」は、子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくために重要な課題であり、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けられている。

これらの状況を鑑み、子どもの生活環境の変化、食育の基本的考え方、家庭で実践していただきたい食育、学校で行われている食育、地域社会での様々な食育推進活動、肥満を代表とする子どもの生活習慣病、そして、適切な運動の重要性などについて、専門家あるいは実践者の立場から述べる。

からだの栄養と心の栄養の両立による豊かな人間性の育成こそが、食育の真に目指すところであるという観点からまとめ、我々一人ひとりが、まさに自分や家族の問題として食生活を見つめ直し、社会のあらゆる分野における食育活動への参加、協力の一助となるような学習コンテンツの制作を目指した。

（２）制作方法

久留米信愛女学院短期大学において、９月から 10 月にかけて開講された「親と子の『食育』」講座（全６回）を基本に、新規収録及び編集を行った。既存コンテンツの収集・発掘による有効活用については、「食育」という新しい分野での内容であったため、取り組むことができなかった。

視聴者にとって分かりやすい番組を制作するという観点から、事例報告や地域での実践活動などの具体例を豊富に盛り込むよう工夫した。現地取材を行ったこれらの映像は、番組内に、適宜挿入している。

また、字幕スーパーやフリップなどを要所要所で提示することにより、画面のマンネリ化を防ぎ、視聴者が画面に集中できるよう配慮した。番組の途中で休憩時間を設定し、本学教員が演奏するパイプオルガンによる曲を流し、同時に本協議会の説明を字幕スーパーにて行った。

（３）制作スケジュール

平成 17 年７月６日に、第１回久留米地域参画推進連絡協議会及び制作全体会議を開催し、制作する学習コンテンツの内容等について検討・協議を行い、協議会としての役割分担等について決定した。協議会におけるこれらの決定に基づき、制作に着手。８月から 12 月にかけて撮影を行い、同時並行で編集を行った。

（４）著作権処理

コンテンツ内で使用したデータ・写真等は、ほとんど講師のオリジナルデータである。既存のデータ等を使用する場合は、出典を明確にし、引用の範囲でとどめるよう努めた。

公開講座収録時には、受付及び受講会場入口に、本事業の説明文を掲示し、講座開始時に口頭で説明を行った。撮影時も、同じく口頭で説明し、承諾書あるいは了承を得た。

２．学習コンテンツの配信に関して

（１）福岡県教育センターとの連携

９月に、福岡県教育センター情報教育部と、配信に関する打ち合わせを行う。配信スケジュール確定後、11 月に配信依頼書を送付。番組間の休憩時間等、詳細について、適宜、担当者と連絡を行った。

（２）配信スケジュール（本放送）

平成 17 年 12 月 17 日(土)「子どもの食環境」
平成 18 年１月 14 日(土)　「食育の基本」「食育の実践－家庭で－」
平成 18 年１月 21 日(土)　「食育の実践－学校で－」「食育の実践－地域社会で－」
平成 18 年１月 28 日(土)　「子どもの肥満」「みんなの食育」

２本続けて放映される場合は、番組間に 10 分間の休憩時間を設定した。

当日は、信愛コラボレーションプラザ「リリウム」を受信会場として、地域の受講者を募った。参加者は、約 130 人（全４回分の合計）。

（３）インターネット配信

番組の内容等を考慮し、インターネット配信については取り組まなかった。

３．学習コンテンツの活用に関して

（１）貸し出し用ビデオテープ及びＤＶＤの制作

地域からの貸し出し要請に応えるため、作成。放送終了後、筑後地域の小学校、幼稚園、保育園、ＰＴＡ、保育士会等へ貸し出しを行った（平成 18 年２月末日現在）。

（２）テキストの作成

同じく、受講者の学習を補完するため、作成。番組毎のテキストに加え、全７回分をまとめたテキストの２種類を作成した。

（３）広報

①資料の郵送

「エル・ネット『オープンカレッジ』News」（Vol.23、24）の配布に加え、コンテンツの内容・放送スケジュールを記載したＡ４紙を作成し、当協議会の関係部署（公民館等を含む)、久留米信愛女学院短期大学が関係する機関（久留米市内の小中学校、幼稚園、保育園、施設、企業）等、久留米信愛女学院短期大学公開講座受講生、取材協力者、その他県内の関係機関へ、郵送配布を行った。

②新聞社への資料提供

久留米市の広報（記者クラブ）を通じて、資料を配布した。その結果、西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、日本農業新聞において紹介された。

③その他

当協議会の関係部署の来客者用窓口、信愛コラボレーションプラザリリウム等での資料配布等、積極的に広報を行った。

（４）本放送以外での活用

当協議会のメンバーである久留米市子育て支援部主催による第 27 回「子育て支援講座」において、「21 世紀の食育　第２回　食育の基本」の放映と講演が行われた（平成 18 年２月８日：久留米市三潴町公民館、２月 15 日：久留米市田主丸勤労青少年ホーム、３月３日：えーるピア久留米)。放映コンテンツは「21 世紀の食育　第２回　食育の基本」。講師は、久留米信愛女学院短期大学健康栄養学科助教授の山下浩子（各３回共通)。

（５）他機関との連携による活用

①北筑後地域家庭教育推進協議会

平成 18 年２月 19 日、北筑後地域家庭教育推進協議会主催の「家庭教育セミナーin 久留米」において、「21 世紀の食育　第３回　食育の実践　－家庭で－」を利用した食育講座が実施された。講師は、久留米信愛女学院短期大学健康栄養学科教授の尾形壽子。「体と心の健康　食と音楽で」というテーマの下、講演と音楽会という２部構成となっており、親子で参加できる内容であった。

②「ファミリー・サポート・センターくるめ」会員フォローアップ講習会

平成 18 年２月 20 日、会員を対象とした研修会において、テーマ「今、なぜ食育かー家族と家庭の変容」と題し、「21 世紀の食育　第３回　食育の実践　ー家庭でー」を活用した講座を実施。講師は、久留米信愛女学院短期大学地域参画推進センター長の岡部千鶴。

（６）受講者へのアンケート調査結果

受講者へアンケート調査を行った。内容については、好評であり、「食育の大切さがわかった」、「食育基本法が制定されたもののどのように進めればよいか分からなかったので、大変参考になった」、「資料が詳しく、家で再度読み返して実践していきたいと思う」などの感想が寄せられた。

４．今後の課題

放送終了後、第２回の制作全体会議で、事業の成果等について評価・点検を実施した。

（１）成果

「食育」という今日的なテーマであったため、取材の依頼等には非常に好意的に応じていただいた。協議会内での連絡・調整も順調に進み、撮影を行うことができた。また、新聞で掲載されたため、番組内容に関する問い合わせが多く、視聴者も多かった。放送終了後も、問い合わせがあり、ビデオテープまたはＤＶＤの貸し出しというかたちで対応している。

（２）課題

年配の女性が受講者の大半を占め、視聴者層の掘り起こしが必要であると思われる。若年者や男性の受講者は少なく、これらの層を如何にして生涯学習の場に取り込むかは引き続き検討するべき課題である。今回、本協議会は、インターネット配信については見送ったが、昨今の状況を鑑みるなら、学習情報の発信についてもインターネット環境によって行われることは必至である。本協議会でも対応整備が急がれる。しかし、インターネットへの移行が本格的になった場合でも、学習に対して積極的ではないこれらの層が、どの程度受講するのかについては､疑問の残るところである｡魅力あるコンテンツの作成に加え、受講意欲を喚起させる何らかの方策を講じる必要があると考えられる。

岡部　千鶴（久留米信愛女学院短期大学　地域参画推進センター長）

（６）特定非営利活動法人　大学コンソーシアムおおいた

１．コンテンツ　テーマ選びの工夫について

大学コンソーシアムおおいた会員の８大学に、当該年度開講予定の公開講座の本事業への提供を呼びかけ、５大学から２～３講座を推薦してもらった。これを大学コンソーシアムおおいた事務局側で、大分県や各大学の特色、社会的要請やニーズなども考慮しながら10講座を選定し、申請した。なお、申請した講座の中には、前年度の収録済ビデオを編集して作成予定のものがあったが、家庭用ビデオで撮影したもので、三脚による固定録画で録画状態が悪く使用できず、本事業用に再度収録を行ったものがある。

２．学習コンテンツの制作について

・　どの講座においても、エルネット視聴者が受信機の前で飽きずに内容にも興味を持ってもらえることを制作の基本方針にして、収録前に担当講師と大学コンソーシアムおおいた担当者、制作会社ディレクターとが講義内容・進め方、撮影方針・撮影方法などについて綿密な打合せを行い、収録後も関係者の視聴により、適宜編集を加えた。各講座ごとの収録方法や制作上工夫した点については、**表**を参照のこと。

・　編集においては、講義の関連資料や写真などの映像をふんだんに取り込んだり、テロップやナレーションによる補足説明、講義テーマに合うＢＧＭなどを入れて、学習コンテンツとしての魅力が増すように工夫した。

３．協力機関との連携に関して

大学コンソーシアムおおいたは設立後間もないところ、本事業への講座提供大学については当法人の会員であったため、コンテンツの選定や制作過程においても十分に連携がとれた。しかし、エルネット全般のことや大分県教育庁教育機関における所管事項のことについて疎かったうえ、応募期間も短い中で、連携が十分でないまま応募したため、その後、関係機関に迷惑をおかけした。

４．学習コンテンツの発信に関して

・大分ＶＳＡＴ局である大分県教育センターは、県内小・中・高等学校教員の研修業務を

主な職務としているため、現在のスタッフにＶＳＡＴ発信の操作経験者がおらず、発信関連機器の状態も不安定であった。このため教育センターでは、事前にパナソニック SS マーケティング（株）による保守点検、操作方法説明会を開き、１回目の試験放送は、パナソニック社立会いの下に実施するなど、万全の体制を整えた。２回目の試験放送、本放送からは、教育センタースタッフにより順調に放送している。

・各公開講座の受講者には、講義前にエルネットや本事業の趣旨、放送日をお知らせし、最寄りの受信局での視聴を促したが、受信装置の故障や公民館運営等の理由で、市民が自由に視聴できない受信局があった。

５．学習コンテンツの活用に関して工夫した点

（１）地域における広報

公開講座実施大学によるホームページ上や新聞告知に加えて、当事業の公募採択時と大分からの第１回放送時に地元新聞である大分合同新聞に記事掲載され、県民の生涯学習への関心を高める工夫をした。

（２）活用の方法

・ 公募申請にも記載したように、本事業により制作した 10 本の学習コンテンツは、大分県生涯教育センターが運営する県民アカデミア大学のインターネット講座コンテンツとして有効活用する予定である。平成 18 年３月に全 10 本（ビデオテープ）のコンテンツを生涯教育センターに納品し、４月から開講する県民アカデミア大学のインターネット講座コンテンツとして再利用を行う。

・ その他､10 本のビデオテープを大分県生涯教育センターの県民向視聴覚ライブラリー、大分県教育センターの教員向視聴覚ライブラリーとして、希望者に貸し出しできるようにする。

表

<table>
<tr><td>コンテンツ名</td><td>①撮影場所　②講義参加者　③撮影回数・時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">制作について　①収録方法　②制作上工夫した点　③コンテンツ内容評価</td></tr>
<tr><td>（１）岡城歴史散歩</td><td>①岡城跡公園　現地
②主に大学生　30 名
③１回　３時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">①講師と学生 30 名が岡城跡公園を約３時間かけて歩きながら講師の所々での説明と、学生からの質疑応答の様子を収録。
②収録時期を紅葉の美しい 11 月中旬に設定した。
③紅葉で美しい岡城跡を背景にして、飽きの来ない動きのある内容、現地でしか学べない内容の濃いコンテンツが作成された。</td></tr>
<tr><td>（２）大蔵永常の生涯</td><td>①大学講義室
②主に大学生 30 名
③１回　90 分</td></tr>
<tr><td colspan="2">①大学講義室において、講師から学生への講義を収録。
②一方通行の講義では飽きるため、大蔵の肖像画や著作原物を県立博物館から借用して撮影し、映像の中にふんだんに取入れた。
③約 40 分のコンテンツで大蔵の生涯を理解するには十分な内容となったが、全体的に講師の講義部分の映像が長くなり、編集においてもう少し工夫が必要であった。</td></tr>
<tr><td>（３）絵の講座
－和紙に描く水彩画</td><td>①大学実習室
②市民　60 名
③３回　９時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">①大学実習室において、市民による実習風景を収録。
②実習過程での参加者の感動や驚きの表情を取れるよう、９時間全ての映像を収録して、編集した。
③制作技術やノウハウを教える講座ではなかったため、エル・ネット視聴者が放送中継続して興味を持てる内容であったのか、不安が残った。</td></tr>
<tr><td>（４）アジア太平洋からの友人
～学生と市民との相互理解</td><td>①大学ゼミ室
②主に大学生　15 名
③２回　３時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">①大学ゼミ室において、講師からの概要説明、学生３人からのプレゼン、講師の講評の様子を収録。
②一方通行の講義では飽きるため、大学の特徴や学生の紹介、写真などの映像を取り込んだ。
③全般的には、講義のねらいがうまく表現されているが、学生のプレゼン能力の問題から、退屈な部分が残った。</td></tr>
<tr><td>（５）伝承説話から見る日本と韓国との関わり</td><td>①文化会館
②市民　50 名
③１回　90 分</td></tr>
<tr><td colspan="2">①文化会館において、講師からの講義・説明風景を収録。
②講義の合間に、説明する説話についての絵コンテと語りを入れて視聴者のイメージを高める工夫をした。
③日本と韓国のつながり、伝承説話の相違点や伝播経路のわかる歴史的にも興味深い内容に仕上がった。</td></tr>
</table>

（６）高齢者の家庭看護	①大学実習室 ②市民　30 名 ③１回　２時間
①大学実習室において、講師からの説明、参加者による実習風景を収録。 ②高齢者の体位変換や移動などの実習は、視聴者にわかりやすくするために、援助者の局所ごとの動きを再収録するなど工夫した。 ③高齢者の家庭看護技術について、視聴者でも理解し、実践しやすい内容に仕上がった。	
（７）家庭における小児の救急法	①大学実習室 ②市民　30 名 ③１回　２時間
①大学実習室において、講師からの説明、参加者による実習風景を収録。 ②応急手当の手技実習は、援助者の局所ごとの動きを再収録するなど工夫した。 ③講義の狙い通り、視聴者でも理解、実践できる内容に仕上がった。	
（８）中高年の健康登山	①万年山　現地 ②市民　12 名 ③１回　４時間
①講師と参加者とが実際に登山を行いながら、講師の医学的説明の様子などを収録。 ②未経験者でも気軽に登山をしたくなるように、自然と触れ合いながら、健康的に楽しく登山をしている様子を演出した。 ③美しい山の背景映像と講師による効果的な説明により、登山の良さと健康への効果を十分に理解できる内容となった。	
（９）スターリングエンジンを作ろう	①高専実習室 ②中学生　20 名 ③３回　９時間
①高専実習室において、講師からの説明、参加中学生によるエンジン製作風景、完成後の中学生へのインタビューの様子を収録。 ②視聴者でも製作することが出来るように、図による解説画面や組み立て手順書もダウンロードできるようにした。 ③青少年に科学に対する興味をもってもらえる良い内容に仕上がったが、参加中学生の表情の変化や感動を活き活きと画面に表現しきれなかった。	
(10) アイデア対決　ブリッジコンテスト	①高専実習室 ②小学高学年　20 名 ③５回　15 時間
①高専実習室において、講師からの説明、参加小学生によるブリッジ製作風景、コンテスト表彰の様子を収録。 ②15 時間の全実習風景を収録し、参加小学生がものづくりの楽しさを感じていく様子を追いかけた。 ③コンテンツ制作者側の狙い通り、参加小学生の製作中の表情の変化やコンテスト表彰での感動の様子を活き活きと画面に表現できた。	

村田　陽一　（特定非営利活動法人　大学コンソーシアムおおいた　事務局長補佐）